



active learning



主体的な学びを促進する アクティブラーニング



2月26日(木)
14:00~16:45

4号館2階 D-24教室 (Y-ACT)

プログラム

14:00-14:30

グローバル人材育成推進事業における
アクティブラーニングの試み
学びの目的を明確にする「域学共創学習プログラム」の成果と課題
発表者: 斉藤理 (国際文化学部准教授)

14:30-15:30

多文化社会コーディネーター養成講座のねらいと展開
講師: 杉澤経子先生 (東京外国語大学)



講師: 杉澤経子先生 (東京外国語大学)

東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターにおいて
多文化社会コーディネーター養成講座プログラム責任者、
同研究センタープロジェクトコーディネーター。
とくに、「地域における日本語教育の体制づくり」、「多文化社会
型居場所づくり尺度を使った教室の評価方法」などをテーマに、
この分野における先駆的取り組みにあたっておられます。

15:30-16:00

アクティブラーニングを使った一般授業展開の事例

事前学習、小テスト、ループリク、反転授業などの可能性
発表者: 岩野雅子 (山口県立大学副学長)

16:00-16:45

クロスセッション

「主体的な学び」の拡がり、もたらすもの
学習者にとっての効果と社会的意義について

「アクティブ・ラーニング」というと、何だか型にはまった分刻みの授業でせわしない、という印象が先行しがちですが、どのようにしたら単に手法としての「アクティブラーニング」ではなしに、自ら学びに意欲的で、文化の奥深さも十分に心得た人材を育成することができるのか、今回のFDでじっくり考えてみたいと思います。

そこで、「参加」>「協働」>「創造」のプロセスを有機的に組み合わせた「多文化社会コーディネーター養成講座」を展開しておられる杉澤先生を講師にお迎えし、積極的なディスカッション、グループワーク、モニタリング、プレゼンテーション、これらを引き出している学びのカリキュラムについて詳細に伺います。

同プログラムは、教育哲学者ジョン・デューイの「プラグマティズム (pragmatism)」やドナルド・ショーンの「省察的实践 (reflective practice)」をベースとし、「振り返り」を軸としながら構成されていることが特色です。

「振り返ることで実践の経験が糧になる」という考え方は、他の機関の教育実践においても大きく生かされていくものと考えます。

グローバル化が進む社会においては、主体的に他との関わりを持ち、そうしたコミュニケーションを通して相互に学びを深めていく能力が求められていると言われます。

履修者の主体的な学びを促し、また授業運営する教員スタッフも学びを深めていける方法について、今回、議論を深めていければと考えます。

どうぞ皆様、どなたでもお気軽にご参加ください。



申込・問い合わせ
山口県立大学 教育研究推進室
erepo@yamaguchi-pu.ac.jp

山口県山口市桜島3-2-1
TEL:083-928-3437
FAX:083-928-3447